

「JENESYS2024」第二十六回中国教育関係者代表団の記録

1. プログラム概要

【目的】本事業は、1996年度より継続する、中国の小・中・高等学校の教員並びに教育関係者の招聘事業で、26回目となる今回は、「小・中・高校生へのネットリテラシー教育」をテーマに、各種教育機関への訪問・視察等を通じて日本の教育について理解し、日本の教育関係者と交流を図るほか、日本に対する包括的な理解を促進することを目的として実施しました。

【参加者】中国の教育関係者 30名

【訪問地】東京都、埼玉県、千葉県

【日程】

■ プレプログラム

2025年1月16日（木） オンライン事前オリエンテーション

■ 招へいプログラム

2025年1月20日（月）～1月24日（金） 4泊5日

日にち	概要
1月16日 プレプログラム	【オンライン事前オリエンテーション】 ①主催者代表挨拶 ②出席者紹介 ③日程・注意事項説明 ④アンケート・対外発信・アクションプラン説明 ⑤質疑応答
1日目 1月20日	羽田空港より入国 都内参観 【歓迎会】
2日目 1月21日	【テーマに関する視察】 エコルとごし（環境学習施設） 品川区立品川学園 ①学校概要説明・「情報モラル教育」の取組み紹介 ②授業参観・施設案内 ③給食体験 ④児童生徒会との交流 ⑤教員と意見交換

	<p>【テーマに関する講義】 文部科学省ブリーフ 「学校における情報モラル教育について」 講師：川口 貴大 文部科学省初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチーム情報教育振興室 室長補佐</p> <p>【外務省表敬】 宮路拓馬 外務副大臣</p>
3日目 1月22日	埼玉県へ移動 【懇談会】 埼玉県教育局との懇談会 ①埼玉県の教育概況紹介 テーマ「本県における小・中・高校生へのネットリテラシー教育について」 ②懇談 【視察】 さいたま市防災展示ホール ①消火体験 ②地震体験 ③煙体験 千葉県へ移動
4日目 1月23日	【テーマに関する視察】 千葉大学教育学部附属中学校 ①挨拶・学校紹介 ②「ネットリテラシー教育」の取組み紹介 ③教職員との意見交流 ④授業見学・校舎案内 ⑤代表団団長挨拶 千葉大学キャンパス視察 東京へ移動 【歓送報告会】
5日目 1月24日	【参観】 都内参観 羽田空港より帰国

2. 記録写真



2025年1月21日【視察・訪問】
エコルとごし



2025年1月21日【視察・訪問】
品川区立品川学園



2025年1月21日【講義聴講】
文部科学省ブリーフ



2025年1月21日【外務省表敬】
宮路拓馬外務副大臣



2025年1月22日【懇談会】
埼玉県教育局との懇談会



2025年1月23日【視察・訪問】
千葉大学教育学部附属中学校

3. 参加者の感想（抜粋）

◆日本の外務省と埼玉県教育局を訪問した際、両国の小中学生に対するインターネットリテラシー教育について、日本の政府部門関係者と深い意見交換を行いました。交流を通じて、小中学生に向けたオンライン教育分野における日本のマクロ計画と開発の方向性をより包括的に理解することができ、また、日本政府が小中学生向けのオンライン教育を非常に重視していることを感じました。また日本の学校も訪問し、その過程で日本の教育の細部や個性へのこだわりを深く感じました。校内環境のレイアウトからカリキュラムの慎重な配置まで、すべてが学生の総合的な成長への重視を体現していました。このような学生の主体的地位の尊重は、中国で提唱されている質の高い教育の理念と一致しています。両国の教育は、文化的背景や教育制度に違いはありますが、学生の総合的な成長を追求するという目標は非常に一致しています。また、カリキュラム設計や授業評価等についても、学校の先生や学生と深く意見交換しました。互いの経験や悩みを共有したことが、今後の教育実践のための新たなアイデアにつながったことは間違いありません。

教育分野での交流に加え、品川区の環境保護施設やさいたま市防災展示ホールも見学しました。品川区の環境施設を視察した際には、日本のゴミ分別や資源リサイクルに関する高度な技術と成熟した経験を目の当たりにしました。これらの貴重な経験は、環境保護の発展を促進し、中国に美しい故郷を築くために大変参考になります。さいたま市防災展示ホールでは、地震や火災などの災害シナリオを模擬体験することで、日本の防災減災教育の体系的な性質を学びました。誰もが基本的な防災知識と緊急時対応能力を身に付けられるようにしていて、非常に学ぶ価値がありました。

◆品川学園を視察した際、日本の公立学校が平均的な教育に基づいて学生の個々の育成に努力していると感じました。公立学校で学ぶ中日ハーフや中国人の子供たちがこれほど多くいるとは思っていませんでしたが、誰もが非常に鷹揚でゆったりとしていて印象深かったです。訪問先で出会った子どもたちは、大きな声で挨拶をし、中国語で挨拶をする子も多く、皆の好奇心や活力を感じました。埼玉県教育局との交流の中で、日本全国の小中学校で1人1台端末が整備されていることや、ICT技術が広く教育に活用されていることを知りました。しかし同時に、インターネットによって引き起こされる多くの問題もあります。問題は中国にも共通し、その解決策は多くのアイデアを与えてくれました。言い換えれば、それはクラスの担任に個別に依存するのではなく、そのような問題をすべていじめ対応組織に解決を任せることで、一方では教師独自の対応によって引き起こされる問題を回避し、教師の責任も軽減していて、参考にする価値があります。

◆日本に滞在した数日間、教育者、学生、ソーシャルワーカーを含む日本人の温かさ、礼儀正しさ、活気に感銘を受けました。初日の夜の交流会では、日本人教師の笑顔にとっても癒され、品川学園の学生たちの生き生きとした熱意にとっても感動し、ホテルのスタッフも私たちに気持ちよく過ごさせてくれました。今回の訪問で感じたのは、日本と中国には青少年の教育面で共通点や特徴があるということです。類似点は、私たち全員が特定の個別の国の状況に基づいて教育に取り組んでいるということです。違いは、重点的に推進している分野とプロジェクトの違いです。埼玉県教育局のインターネットリテラシーに関する報告を聞きましたが、10代の若者を対象とした人工

知能リテラシー教育を体系的に設計し、実施していました。千葉大学教育学部附属中学校を訪問した際、将来の才能を育成するために、学生の個別かつ長期的な育成に基づく小中大一体の教育の取り組みを行っていることが分かりました。また、品川学園では、ゴミ分別における日本の特色ある取り組みを実感しました。すべての国が、グローバルな生態文明、教育、持続可能な発展に貢献するために、さまざまな対策を講じていることが分かりました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆埼玉県を取組を知っていただく機会をいただき、ありがとうございました。また、中国の小・中・高・特別支援学校の状況についても、参加者の方々から丁寧に説明いただき、理解を深めることができました。

今回の機会を生かして、今後も県内の児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、様々な取り組みを進めてまいります。

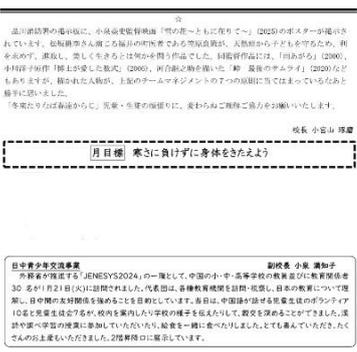
◆中国の先生方が大変熱心で、積極的に質問してくださったり、生徒たちと交流を図ってくださったりしたため、受け入れ側としては嬉しく感じました。こちらとしても中国の事情を知ることができ、勉強になると共に刺激を受け、今後の教育活動への活力を得ることができたと思っています。

◆児童生徒にとって、外国の方と触れ合う貴重な体験になった。

児童が、中国のことについて調べたことを代表者の方に見ていただき、とても喜んでいた。

中国の教育関係者の方と実際に会ってお話しできたことで、教員としても有意義な時間となった。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 <p>品川学園の通信に、小・中・高連携推進「日中青少年交流事業」の紹介が掲載されています。記事には、品川学園の児童生徒が、中国の小・中・高の先生方と交流し、互いの文化や生活について学び合う機会が得られたことが紹介されています。</p> <p>校長 小島 洋彦</p> <p>月目標 寒さに負けずに身体をきたえよう</p> <p>日中青少年交流事業 副校長 小島 満和子</p> <p>本事業が推進する「JENESYS2024」の一環として、中国の小・中・高の先生方に教育関係者3名が1/21(火)に訪問しました。本事業は、各種教育関係者間の交流、日本の教育について情報交換し、日中間の友好関係を築くことを目的としています。本事業が推進する児童生徒のネットリテラシー10名と児童生徒会7名が、校内外を案内したり学校の様子を見学したりし、親交を深めることができました。漢語や中国語の授業に参加していたり、給食と一緒に食べたりしました。とても喜んでいただけましたので、その様子をお知らせいたします。</p>	 <p>埼玉県教育委員会 ～埼玉県教育委員会が公益財団法人日中友好会館と交流～</p> <p>1/22(水)日中友好会館が主催する「JENESYS2024」第26回日中教育関係者代表団の訪問において、県内生徒指導課との情報交換が行われました。</p> <p>中国教育関係者様と児童生徒のネットリテラシーに関する情報交換を行いました。</p> <p>ポスト</p> <p>1/22(水) 2024年1月22日 1,145件の表示</p>
<p>2025年2月号学園だより（品川区立品川学園） 「～日中青少年交流事業～」 1/21（火）に代表団が学校を訪問。児童による学校紹介や給食体験、授業参観等を行って交流を深めたことを紹介。</p>	<p>2025年2月7日（埼玉県教育局 X、Facebook） 「～埼玉県教育委員会が公益財団法人日中友好会館と交流～」 1/22(水)に埼玉県生活指導課が中国の教育関係者と児童生徒のネットリテラシーに関する情報交換を行ったことを紹介。</p>



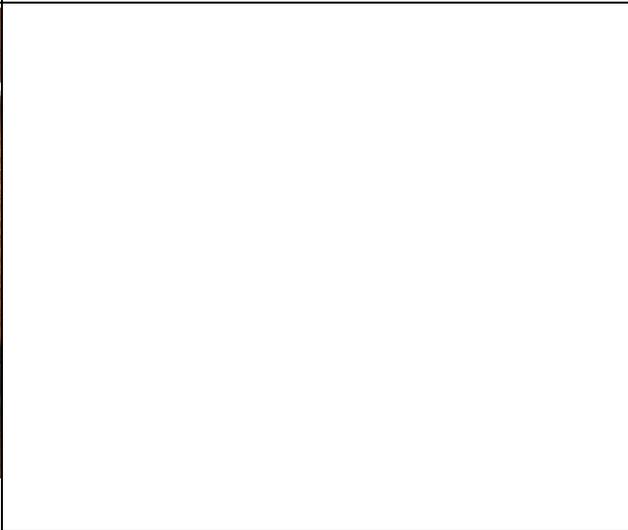
団員による帰国後の報告会の様子
 (北京市朝阳区实验小学)



団員による帰国後の報告会の様子
 (北京第一实验小学)



団員による帰国後の報告会の様子
 (北京景山学校大兴实验学校)



6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表



【訪日中の学び】

AI リテラシー教育が体系的に設計され、実施されていることを深く理解できた。また学校では革新的な人材の育成のため、生徒の個性化、長期的な育成を基盤とした教育活動を行っていることを実感した。

【アクション・プラン】

今回の訪日の経験を、家族や友人、学生と共有したい。また日本の中学校と友好協力関係を築き、日中青少年交流の基盤を作りたい。第二に姉妹校提携により言語学習を基本とした特別オンラインコースや、両校の学生に分野の横断的な研究プロジェクトを提供し、国際的な視野と理解を備える優れた若い人材の育成に貢献したい。



【訪日中の学び】

小中学生向けオンライン教育分野における日本のマクロ計画と発展の方向性を包括的に理解することができ、また政府が小中学生向けのオンライン教育を非常に重視していることを感じた。

【アクション・プラン】

この交流から得たものを日々の授業に取り入れ、生徒や友人たちにも日本の優れた文化や先進的な教育概念を学べるようにしていきたい。

実施団体名：(公財) 日中友好会館